山鹿中央病院

認知症新薬 県内初投与

「レカネマブ」70代女性に

昨年12月に保険適用され全国で順次投与が始まった認知症の新薬「レカネマブ（商品名レケンビ）」について、山鹿市の山鹿中央病院は15日、熊本県内で初めて投与を開始したと明らかにした。希望者約40人に検査や面談などを重ね、適性があると判断した患者2人のうち、熊本市北区の70代女性が第1号となった。

レカネマブは、脳内の原因物質を除去して進行抑制を狙う初の認知症薬。製薬大手エーザイが米社と共同開発した。認知症の多くを占めるアルツハイマー病のうち、軽度認知症とその前段階の軽度認知障害（MCI）の人が対象。臨床試験（治験）では進行を約27％遅らせる効果があった。

山鹿中央病院でアルツハイマー病の新薬レカネマブの点滴を受ける女性＝15日、山鹿市

投与は、2週間に1回の点滴を原則1年半続ける。標準の薬価は年約298万円だが、患者が70歳以上で高額療養費制度を適用できれば、医療費の自己負担額が年14万円程度になる場合もあるという。

副作用の有無を定期的に調べるMRI検査などに対応した専門医療機関で投与できる。県内では、今春ごろの投与開始に向けて準備する済生会熊本病院（熊本市）を含め、二つの病院が実施機関となる見通しだ。

山鹿中央病院によると、この日初めて点滴を受けた女性はMCIに近い早期段階の症状。女性は「家族に物忘れが目立つと言われ、昨夏受診を始めた。病気の進行に恐怖感があり、少しでも効果に期待したい」と話した。同病院には県内外から問い合わせが相次いでいるという。

2人目の患者の70代男性にも近く投与する方針。治療を担う大森博之・神経内科部長は「この薬は厳格な投与基準があり、遺伝子的な向き不向きもある。当病院は物忘れ外来の担当医3人がおり、まずは相談してほしい」と呼びかけている。

（猿渡将樹）